

学校評価表 令和5年度 川地中学校 最終評価(自己評価)

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策・取組	成果指標(目標値)どこまでさせるか:数値	中間達成率	最終達成率	指標分析	評価	結果・課題・取組
探究	「主体的で探究的な学びの創造」  (各種学力調査で全国平均を全教科で上回る)	探究的に学び続ける習慣の確立 <教務部>	①授業改善の推進(課題設定の工夫、問いの精選) ②家庭学習の充実(宿題や自主学習の内容の指導,段階的な指導) ③学習タイム(終HRでの10分間の学習)	①対話を意識した単元構想シート一枚作成 ②自主学習の各学年の目標枚数達成者50%(1年50ページ,2年70ページ,3年100ページ/学期) ③5級以上の合格者80%以上,3級以上の合格者50%	①100% ②52.9% ③41.6%	①87.5% ②30.4% ③5級 110.2% 3級 105.8%	①,7人/8人(87.5%)作成(2月8日現在)  ② 5人 /33人(15.2%)  ③各種検定: 5級以上:88.2% 3級以上:52.9% 2/13 現在 国語 5級以上:88.2% 3級以上:56.8% 数学 5級以上:82.3% 3級以上:50.0% 英語 5級以上:94.1% 3級以上:52.9%	2	①について 研究授業や年度途中より始めた月に1回の教員相互の授業の参観により、「対話とファシリテート」を意識した問いや授業構成の工夫をした。今後も授業研究や研修資料での研修を継続する。また、教科の本質的な問いを通して永続的な理解を得る授業改善を進める。 ②について 家庭学習のための「五輪の書」で自主学習の方法や学習例を指導した。各教科で重ねて家庭学習の仕方について指導するとともに、学級でも自主的,主体的に学習できるように意欲付けを行う。 ③について 昇級が難しい生徒への支援に課題がある。国・数・英の教科担任以外の複数教員での並行した個別にみる指導を継続する。また、タブレットドリル(e-ライブラリー)を活用した個々にあった学習を引き続いて進める助言をする。併せて、個々の学習の進み具合を把握して指導に生かす。
		「かく」活動の充実と表現力の向上 <教務部>	①授業改善の授業推進(対話を意識した活動の設定) ②「かく」活動の定着・充実(語彙シートの活用,言語活動の充実) ③小中一貫教育の推進(9年間の語彙指導,小中つながりのある「かく」指導)	①対話を意識した授業を全員が年1回以上実施する ②三次市学力到達度検査の活用問題で市平均以上 ③小中合同研修年3回,小学校への授業参観年3回実施 小中合同研修年3回,「かく」指導や自主学習の方法等の系統づくり	①100% ②実施途中 ③100%	①100% ②60% ③83.3%	①全ての授業で実施中 ・研究授業等の8回/8人(100%)実施  ②3教科(国語,社会,理科)  ③合同研修会 年3回(100%) 7月12日,8月24日,1月17日 授業参観 2回/3回(66.6%)	3	①について ペア・グループでの活動などコミュニケーションをとれる形の授業が日常的にできている。学習形態の形だけでなく生徒同士の対話による思考が深まり広がる指示,助言などファシリテートが必要と思われる。 ②について 日常的に授業,生活ノートや行事の振り返りを通して「かく」活動をさらに充実させる。また,読む(分析,解釈),聞く,話す(対話)を組み合わせた言語活動と合わせて学びを深めるようにする。 ③について 授業参観や研究協議を通して学習面や生活面等の交流ができた。小中で段階的に共通して取り組む等を明確にして来年度につなげたい。
心と体	「豊かな心と健やかな体を育む」  (生徒アンケートで肯定的評価85%以上)	自己に気付き良質な人間関係の構築 <生徒指導部>	①個人面接の実施(キャリアカウンセリング等) ②コミュニケーション能力の育成 ・ソーシャルスキルトレーニング実施 ・ペア活動,小集団を生かした教育活動の実施 ・自ら気持ちの良いあいさつを行う指導 ③ SC と連携した相談活動及び委員会の充実(分掌部会・教育相談委員会・いじめ防止委員会・特別支援教育校内委員会)	①生徒面談一人の生徒と年3回以上 ②生徒アンケート(生徒会活動・部活動・自己肯定感),教科アンケートで肯定的評価85% ③教育相談委員会年毎月1回以上,SCとの研修年2回以上実施	①100% ②111.1% ③100%	①100% ②110.8% ③62.5%	①各学年1回以上実施。 ②94.2% 学校の決まり(生徒指導規程)を守っている(100.0%) 生徒会活動に,積極的に取り組んでいる。(96.9%) 部活動に積極的に取り組んでいる。(96.9%) 大きな声で丁寧に挨拶している。(93.8%) 掃除を時間いっぱいしている。(100.0%) ペア活動やグループ活動に積極的に参加している。(96.9%) 宿題や提出課題を提出している。(75.0%) ③教育相談委員会 9/12回(75.0%)。SC研修は11月24日(金)に実施 1/2回(50%)	3	①について 各学年とも,生徒個人面接を1回以上実施した。文化祭の合唱の取り組みは,生徒会スローガンの「絆」の下,3年生が上手く下級生を引っ張り,達成感あふれる文化祭を創り上げることが出来た。下級生に引き継がれていくと確信した。 ②について すべての教育活動(学級活動,文化祭等の行事,部活動等)を通して,人間関係づくりを行い,コミュニケーション能力の育成に取り組んだ。今後もコミュニケーション能力の育成を継続して取り組む。 ③について 日頃から生徒の情報交換を行ったり,教育相談委員会や特別支援教育校内委員会を行ったりして生徒の実態を把握し,SCからの的確なアドバイスを指導に活かすことができた。
		体力・運動能力の向上と食育,特別活動の充実 <生徒指導部>	①体力テストの実施と基礎体力向上プログラムの作成・実施 ②食育の推進	①体力テスト県平均以上の項目 50%以上 ②栄養教諭による授業年1回以上	①115% ②計画中	①115% ②実施途中	①3年生女子が県平均を下回ったが,他1年生男子・2年生男女は県平均を上回った。3年生男子は県平均と並んだ。県平均以上の項目は57.5%。(23/40) ②2月20日(火)に1,2年生対象に実施予定	4	①について 朝の体力トレーニングと体育館を開放しての昼休憩の運動を通して,課題である筋持久力や全身持久力を高める取組を行い,体力の向上を図っていく。 ②について 学校給食センターの栄養教諭と連携をとり内容を決定している。授業準備をして実施する。
		道徳と総合的な学習の時間の充実 <教務部><生徒指導部>	①道徳教育の充実(授業研究の実施・評価についての研修) ②保護者・地域・小学校との連携(授業公開と合同授業研の実施,ゲストティーチャーへの取組) ③情報モラル教育の充実 ④規範意識の醸成のための非行防止教室の充実	①校内研修年2回以上 ②道徳の授業公開各学年年1回以上・小中合同研修年1回以上実施 ③各学期1回の情報モラル教育の実施 ④各学期1回の非行防止,犯罪被害防止教室実施	①実施途中 ②実施途中 ③100% ④100%	①実施途中 ②100% ③66.7% ④100%	①2月22日(木)実施予定 ②道徳の授業公開4月21日実施 小中合同研究会1月17日実施予定 ③計画的に実施途中2/3回(66.7%) 7月20日:情報モラル教育実施 3学期授業で実施 ④計画的に実施途中3/3(100.0%) 7月20日,8月28日,12月22日実施	3	①について 研修においては,教職員からアンケートを取り,授業改善や評価につながる内容で行う。 ②について 道徳の授業をもとに小・中学校の教職員が発問や展開等の授業内容について交流することができた。 ③について 今後起こり得るトラブルについての折に触れながら情報モラル教育を行う。 ④について 規範意識を高める取組として,日々のHR,授業等で号令等をきっちり取り組んだ。また,始業式や終業式で生活面の注意や非行防止の説諭を行った。
信頼	「社会に開かれた教育課程の展開」  (保護者アンケートで学校満足度85%以上)	地域連携とコミュニティ小中連携の充実 <総務部>	①学校の情報発信(各種通信の発行・HP更新) ②地域と共に育つ教育内容の創造(地域貢献,地域保護者への授業参観,ゲストティーチャー活用) ③小中一貫教育の充実	①各種通信月1回以上,HP更新月2回以上 ②保護者アンケートで学校への満足度85%以上 ③小中合同で行う活動(地域清掃活動)	①100% ②113.4% ③50%	①100% ②112.4% ③50%	①通信は月1回の発行,HPは月2回以上の更新を実施  ②保護者アンケート学校への満足度 95.5%  ③地域清掃活動は,実施しなかった。 10月にイングリッシュキャンプ(小学校5年生と中学校1年生)とオープンスクール(小学校6年生)を実施。	3	①について 学校通信,HPについては,行事などタイムリーな話題を情報発信することができた。各学年の学級通信も工夫を凝らし学校の様子を保護者に伝えることができた。 ②について 職員が個に応じた指導を丁寧に行った。また,職員が保護者との連携を綿密に行った。 ③について 英語を使つてのゲームで交流を行った。 「中一ギャップ」をなくすためにオープンスクールを行った。授業や部活動を体験し,中学校を知ってもらう機会となった。
		学校の働き方改革と危機意識の醸成 <総務部>	①各月の在校時間の縮減 ②危機の予測と回避(実効的な不祥事防止研修の実施)	①各月の勤務時間外在校時間45時間未満と職務内容や質の見直し ②不祥事防止研修を年に12回以上	①100% ②100%	①100% ②116.7%	①勤務時間外で月45時間を超える教職員の割合37.5%,10月から1月までの超過勤務時間を月平均にすると39時間54分である。 ②計画的に実施途中14/12回(116.7%)	4	①について 週1回の企画委員会等,組織で業務の効率化や働き方改革に努めてきた。 ②について 時機を逸することなくニュースなど折に触れて不祥事防止研修を行うなど服務規律の確保に努めてきた。今後も実効的な研修を行う。